事例No.	3246
公表年度	R6
団体の属性	一般市
団体名	愛知県津島市

事例区分	行政改革

タグ	・組織改革

事例種類	定年引上げ

事例内容・タイトル

定年引上げ制度施行に伴う六〇歳に達した職員の活躍

出典

地方公務員月報2025年2月号（グラビア）

定年引上げ制度施行に伴う六〇歳に達した職員の活躍

愛知県津島市人事秘書課

1　はじめに

津島市は、濃尾平野の西部、名古屋市の西方約一六kmに位置し、昭和二二年三月に愛知県下九番目の市として誕生しました。全国に三〇〇〇以上点在する「津島神社」の総本社の門前町として、交通・経済の要衝の湊町として、近世・中世を通じて繁栄してきました。そのため、市内には数多くの寺院や、歴史的な町並み、春夏秋冬それぞれの季節に行われる祭りや、魅力的な地域資源が数多く残っています。

日本三大川祭のひとつで、ユネスコ無形文化遺産に登録されており、織田信長も見物した記録がある、津島神社の祭礼として六〇〇年以上の伝統を誇る「尾張津島天王祭」は、毎年七月第四土曜日に宵祭、翌日曜日に朝祭が行われます。提灯をかかげた五艘の巻藁舟が悠々と漕ぎ進み、提灯の灯りが水面に揺らめく幽玄な世界は、絢爛豪華な時代絵巻を彷彿とさせます。

「尾張津島藤まつり」は、毎年四月中旬から五月上旬にかけて行われ、多くの観光客で賑わいます。会場の「天王川公園」には、長さ二七五m、面積五〇三四㎡の壮大なスケールの藤棚があり、爛漫と咲く藤の姿と甘い香りが楽し





めます。期間中のライトアップは一層幻想的な世界を彩ります。

　このほか、秋の「尾張津島秋まつり」、冬の「開扉祭」など、一年を通じて祭りを楽しむことができます。

　日本の歴史公園一〇〇選に選定されている天王川公園は、官民連携事業第一弾として令和五年に整備した、野外ステージや、ランニングコース、Ｐａｒｋ－ＰＦＩによる「スターバックスコーヒー」の出店など、魅力あふれる公園としてリニューアルし、家族連れなど多くの方で賑わいをみせています。

２　六〇歳以後の勤務の意思確認

　令和五年度から制度が施行された定年引上げにおいて、任命権者は、当分の間、職員が六〇歳に達する日の前年度に六〇歳以後の任用、給与、退職手当に関する情報を提供するものとし、職員の六〇歳以後の勤務の意思を確認するように努めるものとされました。

　本市は制度改正を見据え、段階的に定年年齢が引き上げとなる令和五年度から一三年度までの期間に六〇歳に達する職員に対し、六〇歳以降の自身の働き方についてのアンケート調査を令和三年度に実施しました。約七割の職員が六五歳までの勤務を希望しており、うち半数は、フルタイム勤務を希望する結果となりました。

　また、六五歳到達後も、これまで培った知識や経験を活かすため、会計年度任用職員として勤務を希望される職員も多くみられます。

３　高齢期職員に期待する役割

　条例等の関係例規の改正のほか、とりわけ役職定年制については、組織の新陳代謝を確保し、組織活力を維持することを目的として導入されたものであることから、本市においては、六〇歳に到達した管理職に就いている職員は、例外なく非管理職の最上位である補佐級（五級）に降任することとしました。

　また、役職定年制により降任する職員に対して、補佐級職員との違いを明確にするため、三種類のポストを新設しました。部長級、課長級、主幹級の管理職であった職員は、それぞれ調整官、専門官、担当官として業務を行います。いずれのポストにおいても、豊富な知識、技術、経験等を持つ職員が、能力を存分に発揮して活躍するとともに、若年層を含む全ての職員の働き方改革にも資することを期待しています。

　調整官は、管理職業務のフォローやサポート、特命的な業務、外郭団体への派遣、出先機関の長に従事します。専門官は、これまで培ってきた知識や経験、専門性を活かし、次世

代へ知見の伝承のほか、出先機関の長に従事します。担当官は、業務担当者として課内業務の支援に従事します。

六〇歳以上の職員に期待する役割は次のとおりとしています。

（一）これまで培ってきた知識や経験、専門性を活かした、即戦力としての役割

（二）これまで培ってきた知識や経験、専門性を活かし、自らが手本を示すなど、若手職員等へ知見等を継承する役割

（三）管理監督職経験を活かし、管理監督職業務を支援する役割

（四）管理監督職経験で養った視点を活かし、業務改善や課題に担当として取り組む役割

4　市の発展に向けて

当市は現在、「まちづくり再生」と「子育て支援」の二大プロジェクトを進めています。子どもが生まれる前から生み育てるまで、丸ごと応援するための「子育て支援トータルプラン」として、子育て世代応援事業を実施しています。小中学校給食費完全無料化、一八歳までの子ども医療費の完全無料化、第二子以降の保育料の完全無料化、保育所等の副食費半額補助、〇歳児の紙おむつなどの子育て用品が選べる無料定期便など、全国トップクラスの子育て支援、安心して出産・子育てができる環境づくりを進めています。

「まちづくり再生」では、名鉄津島駅周辺を正面玄関として位置づけ、市内の東西南北それぞれの玄関構想、将来に向けたまちづくり戦略「津島Ｎｅｘｔ　Ｍｏｖｅ！」事業を推進しています。現在、官民連携事業第二弾として、津島神社周辺エリアの観光ターミナル拠点の整備を進めています。活力ある魅力的な「新たな津島市」に向けて、名古屋駅まで電車で二〇分台という利便性を生かし、リニア中央新幹線の開業による交流人口の増加を見据えた交通インフラの整備促進を基軸に、未来に向けた新たなプロジェクト「つしまゲートウェイ・プロジェクト」を展開しています。

拠点ごとの「点」の整備、各拠点を繋ぐ「線」の整備、整備地区全体の価値向上に向けた「面」の整備により、まちづくりの推進を図っています。点の整備では、市民への情報発信やワークショップを通じた整備計画の策定業務、線の整備では、拠点を繋ぐ用地買収を含めた道路整備等の専門的な知識が必要とされます。これらの業務に、専門官や担当官の有する知識や手法等が必要であり、若手職員と一緒に業務を遂行することで、これらを次の世代へ引き継いでいくことにも期待をしています。面の整備では、各拠点の整備事業が複数の部署や、愛知県、他自治体、民間事業者等との調整等に、調整官の活躍を期待しています。

高齢期職員がこれまで培ってきた自身の経験等を糧として、気持ちを新たに公務への貢献意識、意欲向上となることを期待しています。高齢期職員と若手職員が一丸となって事業を推進することで、職員一人ひとりの様々な職務経験が資質・能力向上に繋がり、それが組織全体の活力となり、ひいては津島市の発展に繋がっていくことを期待しています。